

グループホーム あかるい家
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800325		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム あかるい家		
所在地	夕張郡由仁町東栄16-18		
自己評価作成日	平成26年3月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_3_022_kan=true&JigyosyoCd=0175800325-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、皆様の思いや感情に耳を傾け表情を確認しお話をさせていただき、不安の無い生活が提供できる様スタッフ一丸となり皆様の生活を支えております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR駅やバス停から近い住宅地に位置するグループホームである。建物内は広く、トイレや浴室、洗面台も広くて使い易い。居間には、観葉植物や生花が飾られ、小鳥も飼われている。敷地が広く、庭や畑、あずま屋もあり気軽に外気浴を楽しめる。地域との交流に力を入れており、事業所の夏祭りやクリスマスに町内の方を大勢招待している。また、元入居していた利用者が連れてきた犬が、職員手造りの犬小屋で飼われており、近所の方が散歩させたり、餌を与えるなど可愛がっている。民生委員の方に立派な菊の鉢植えをプレゼントされることもある。毎週月曜日に音楽療法を行い、ハンドベルなどの楽器を使って利用者が楽しく身体を動かしている。馴染みの関係継続を支援しており、利用者を訪ねて元近所に住んでいた方や、友人が大勢来訪しており、お茶やお菓子を提供して楽しく過ごしてもらっている。また、利用者の希望で、職員が車で遠方の親戚や元住んでいた家、お墓参りなどに連れていっている。通院支援では、町外の病院も全て職員が同行している。食事は彩りを工夫し、誕生会にはチラシ寿司やおやつを用意している。また、広い畑では、ナスやキュウリ、サツマイモ、トウモロコシなど多種の野菜類を、畑づくりの得意な利用者が指導し、職員が丹精をこめて収穫し日々の食卓に上っている。家族に利用者の生活を知らせるために毎月送っている写真入りの「あかるい家便り」がとても喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの中心部に「地域と共に…」の理念を掲示し忙しさの中でも立ち止り、より良いケア向け努力致しております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念が掲げられ、毎月のミーティングで理念を振り返ったり確認したりすることもある。新人職員の研修でも説明されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方のヘアカット(毎月)。冬場の除雪の手伝い。犬の散歩。畑の収穫の手伝い。等。	町内会に入会し、事業所の夏祭りやクリスマスに町内の方や町の担当者を招待している。また、民生委員の方が立派な菊の鉢植えを届けてくれたり、事業所で飼っている犬の散歩や餌やりを近所の方が手伝えるなどの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内清掃。ダンボール・雑紙のリサイクルに協力させていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・町内・民生委員・役場福祉担当の方々とサービス評価の報告、感染予防、反省向上について様々な貴重な意見をいただいております。	運営推進会議は、町の職員や町内会役員、民生委員、家族等が参加し、事業所の状況や研修について報告し、外部評価についても報告して意見を得ているが、開催回数は年間4回にとどまっている。また、案内や議事録は参加者のみの配布である。	運営推進会議の開催回数6回を来年度の目標としているとのことであり、実施を期待したい。また、開催案内や議事録を全家族に送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場・消防・病院・自治会と推進会議、避難訓練、受診、認定調査等、協力関係をお願い致しています。	管理者が年3～4回、計画作成担当者が3回程、町の担当者を訪問しいろいろ相談している。また、運営推進会議や事業所行事にも毎回参加を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	体調不順の方の安全面から車椅子使用時の一時的に拘束を本人・家族の理解の元行い記録にのこします。	日常的に身体拘束をしないケアについて話し合っている。また、「身体拘束関係記録」で身体拘束の具体的な行為を示し、やむを得ず一時的に拘束する場合は、家族の承諾を受け、今後の対応に関しても詳しく記録している。玄関は日中施錠せず、センサーで人の出入りを把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行なうミーティングでマニュアルやスタッフからの情報や知恵等を元に「虐待とは」「どのような事が虐待への繋がりを持つのか」を考え努めています。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者様の弁護士より情報を頂き周知。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約時に十分理解していただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見などに日々耳を傾け必要に応じて家族・本部と相談し対応しております。また意見箱も設置しております。	利用者ごとに写真入りの「あかるい家便り」を作成し、コメントを付けて毎月家族宛に送付している。また、家族が訪問した際に意見を伺い「家族連携ノート」に記録し、全職員で共有している。現在、更に家族の意見や要望を得るために定期的な家族アンケートを検討中である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて話し合いのもと、対応しています。	管理者が普段から職員の意見を良く聞いている。職員からの要望で備品など不足しているものを本部を通して購入したり、新品との買い替えなども行われている。また、大工仕事などは得意な職員がそれぞれ役割を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の休日や時間帯など、ゆうずうしあい、助けあって、勤務できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部にて研修に参加した職員がホーム内にてミーティングし全員が理解できるよう、資料の回覧・報告し実践に生かせるように進めています。（感染症シュミレーション・自然死、看取り講演 等）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な機会を通じて、交流し意見交換の場を設けております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に徐々に慣れていただけますように声かけをし、傾聴に時間を費やし違和感なく生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に情報を頂き、アセスメントを十分にとり合わせて御家族様の不安を軽減できますよう、意向に添ったケアに向け努力を重ねております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を第一に見極めて十分把握したうえで本人・家族の意向を踏まえて対応させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	される介護から出来ない事は一緒に行う者同士への関係に立ちながら行っております。(洗身・着脱・手洗い・洗面・口腔ケア等)		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康状態に特変がない限り毎月報告し、特変時には家族を巻き込ませて頂きながら一緒にケアに関わり本人に安心して頂いております。(お便り・電話・来所時)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気候の良い時期に親戚の会いたい人にお連れし再会していただいたり、以前近所だった方の来所にもゆっくりくつろいで頂くよう配慮致しております。	約半数の利用者に、元近所に住んでいた方や、友人が手土産を持って来訪しており、お茶やお菓子を提供して楽しく過ごしてもらっている。また、利用者の希望で、車で遠方の親戚や元住んでいた家、お墓参りなどに連れていくこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内でそれぞれの方の居心地が良い場所を見極め皆様、お互いの顔が見える様に配慮させていただいております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度、退所された方が、長期入院から戻られ再入所されております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険が及ばない限り意向に添った支援を心がけております。センター方式アセスメント(一年に一度)新しい情報を加えている。	センター方式のアセスメントシートを毎年追加記入し、利用者の情報を蓄積している。また、言葉で表出できない利用者には、職員が具体的な表現で本人の意向を問いかけて把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴のアセスメントを中心に、環境が変わっても安心して暮らせるように馴染みの物を用意いただき、徐々に慣れて頂くように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人々生活リズムに添った支援を行い、小さな身の回りの整理などに楽しみながら参加して頂くように配慮しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画と連動した記録書式作成ですがH25・4月から実施しており介護計画の見直し時に職員の評価が反映できるよう努めております。	毎回担当者を変更して3か月毎にモニタリングし、全職員の意見を集約した課題分析シートを基に介護計画を見直している。前年の取り組み事項であった介護計画を意識した日々の記録については、新書式を取り入れ改善している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録用紙一枚にまとめ日々反省の上、実施経過、課題などを通し見直しに繋げております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不順のニーズの変化に応じて報告・相談等の情報収集に努め家族を含め良い方向へ向かうように取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の取り組みに参加することで地域住民の実感を持てるよう支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続と家族の意向のもと、訪問診療を受ける方等ニーズに応じて医療を受けられるよう支援しております。	利用者は自由にかかりつけ医を選択できる。遠方の医療機関も含めて全て事業所で通院支援している。医療情報は全て記録し、看護師が記載する「医療関係記録」も整備されている。	

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H24、12月より看護職員が週に一回勤務し個々の状態・情報を伝え、相談・助言を頂き適切な受診や看護を受けられるように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院手続き、荷物の用意、担当医との情報交換又、面会時に入院状況・退院時期等、医療機関との連携を図り早期退院に向けての関係作りに努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を作成し家族とも契約しています。重度化、終末期となった場合は家族・医師・施設で話し合い、家族の意向のもと支援させていただいております。	利用開始時に、契約書内の「重度化対応・終末ケア対応指針」を本人・家族に説明し、同意書に署名捺印を得ている。その後、重度化した場合は、法人本部で「ターミナル介護記録」を基に、再度話し合いを行っている。現在までに1件の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	記録・周知・ミーティング等で急変・事故に備えシュミレーションを行い対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	チェック表を用いながら確認し、ミーティングや非難訓練等の時に勉強させていただいております。	年2回、消防署の協力のもとに夜間対応の避難訓練を行い、近所の方の参加も得ている。災害時の備品も用意している。救急救命訓練については、職員全員が参加できるように消防署に協力を呼びかけているところである。	消防署はもとより、町立病院や町外の日赤病院も含めて救急救命訓練の実現を期待したい。また、一度に全職員が参加することが困難であれば、数回に分けて参加することを検討することも期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を否定する様な物言いや、危険を伴った行為にも本人が反省していただけるような言葉かけに注意しています。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとし、言葉かけで気になる場合は注意している。法人主催の倫理や接遇の勉強会を行っている。個人記録類は事務室で安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に行動・考え、話しやすい雰囲気作りに心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本意のペースに出来る限り添った支援に日々努めております。どうしても出来ない場合は十分説明し理解して頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは、一緒色品替えを行い、外出時は本人の希望を聞き着替えなど行っています。身だしなみの際は必ず本人に鏡を見ていただいております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々、皆様のリクエストに添いお好みの食事を楽しんだり、時には一緒に作ったりいたします。魚嫌いの方には調理法を変えて召し上がっていただきます。	本部による献立をもとに事業所で食材を調達しており、畑で採れたさつまいもやトマト、大根なども活用している。利用者はテーブル拭きなどを手伝っている。彩りの豊富な食事が提供され、職員も一緒に同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平均水分量から大幅にずれ込まぬように個人の状況を見極めながら、飲水しております。栄養バランスもカロリー計算の献立のもと、一人ひとりに対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り・声かけをし、義歯や舌にも清潔を十分に、こころ掛けております。歯ブラシはやり直しも、していただきます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄して頂けるように行動・仕草に気配りしております。	個人記録と排便チェックシートにより排泄のパターンを把握して誘導している。できる限りトイレで排泄できるよう支援しており、声かけで気になる場面があれば職員がお互いに注意しながら誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容・水分の種類・飲水時間等を工夫し、冬場は運動不足になる為室内の動きに気配りし予防に努めております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に応じて週二回は入浴しており、入浴を嫌がる方にも興味あるお話しを持ちかけ気分良く楽しんでいただく様に努めております。また、体調不順時は足浴・清拭・陰部洗浄をしております。	入浴チェック表を作成し、各利用者が概ね曜日を決めて週2回以上入浴できており、足浴を毎日行っている方もいる。拒否のある場合も声かけの工夫で入浴を実現している。同性介助や2人介助により安心して入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣に重じて夜間遅い方には起床時を遅くしたり、夜間トイレの多い方の配慮にこころかけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変化があった場合などは、精神面・睡眠・覇気・行動に気配り適宜対応にこころかけております。また、クスリの内容に敏感に話し合い周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり、カーテンの開閉等の些細なことでも責任をもって行なっています。また、かるた・昔話し・レクリエーション等も楽しんでいただいております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場でも受診帰りに遠回り等のドライブ、少々の間でも玄関前で外気触れていただいています。夏～秋は家族と共に買い物やお墓参り、親戚・本人の住居等へお出かけしております。	天候の良い時期には周辺の住宅街を散歩したり、車で公園に出かけている。歩くことが難しい利用者には車いすや歩行器を使った外出も支援しており、各利用者が週1回以上外出できている。年間行事では、白鳥見物や花見、畑仕事、紅葉狩りなどで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は家族の意向で所持されている方は、おりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物等が届いた時には、お手紙の返事等に電話で対応支援させていただいております。年賀状はスタッフが作った物に本人が名前を書いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除・整理整頓に努め、共用空間で居心地よく過ごしていただけるよう努めております。四季を感じていただくべく時期の花・観葉植物・しめ飾り・雛人形飾り・カレンダー作成等で季節感を取り入れております。	居間と食堂を中心に居室や浴室、トイレなどが周囲に配置されており、観葉植物や版画絵などが飾られ、小鳥も飼っていて和やかな雰囲気である。庭や畑、あずま屋などがあり、気軽に外気浴を楽しんでいる。庭に面したテラスにも椅子やテーブルを置き、外を見ながら自由に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にソファを置き、自由にくつろげる居間でお気に入りの場所をそれぞれ確保し、思い思いに過ごされる様子を見守っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている寝具・衣類・家族からのプレゼント・写真・家具等、安心できる居室になるよう心かけ、落ち着いて生活できるよう支援しております。	入口に暖簾をかけ、表札代わりに利用者の写真を飾っている。室内には備え付けの家庭的なベッドとタンスがあり、個々に馴染みの家具や生活用品を持ち込んでいる。壁にも家族の写真や季節の装飾、寄せ書きなどを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーで、居間には大きめの日差しが入る窓があり各所に手すりがあり移動に活用。車椅子対応トイレの広さで安全に生活支援を行なっております。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム あかるい家

作成日：平成 26年 4月 11日

市町村受理日：平成 26年 4月 16日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	年2回の夜間対応避難訓練は出来ているが、救命訓練が実現できていないのが現状。問題点としては職員の時間帯と消防署の時間帯が合わず難しいと考えられる。	救急救命訓練を実現させる。	消防署、医療機関、本部に協力を求め少人数でも参加できる様に実現する方向でいきたいと思います。 又、全員参加できなくても、ミーティングで実演をかね職員、全員に伝わる様に取り組んでいきたいと思います。	1年
2	4	運営推進会議は町の職員、町内役員、民生委員、家族の参加を頂いているが、時間的な調整が図れず年4回に留まっている。又案内状、議事録は参加者のみの配布である。	運営推進会議年6回に向けて計画し、案内状、議事録も配布をしていく。	推進会議は関わり関係者様の承諾を頂きながら調整を図っていき、案内、議事録は家族様に現状を知っていただきたく配布を行なう。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。